

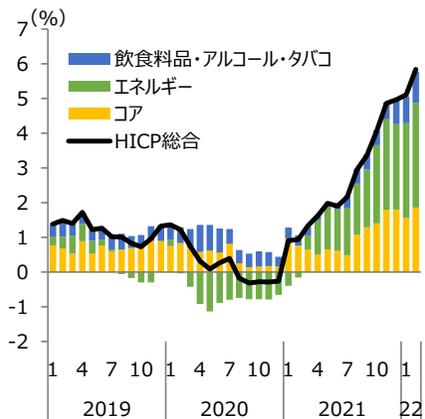
欧州

消費者物価 (2022年2月)

コア物価の上昇加速、エネルギー供給懸念で物価高止まりを見込む

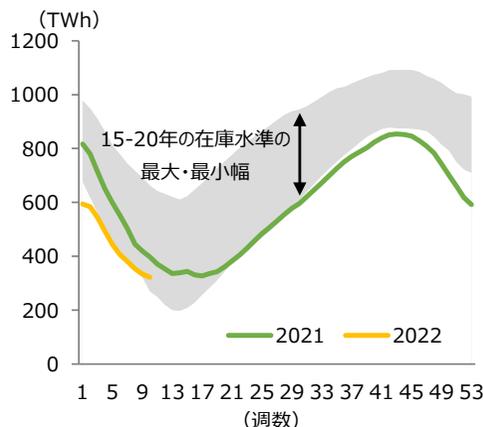
政策・経済センター
綿谷謙吾
03-6858-2717

1 消費者物価 (ユーロ圏、寄与度)



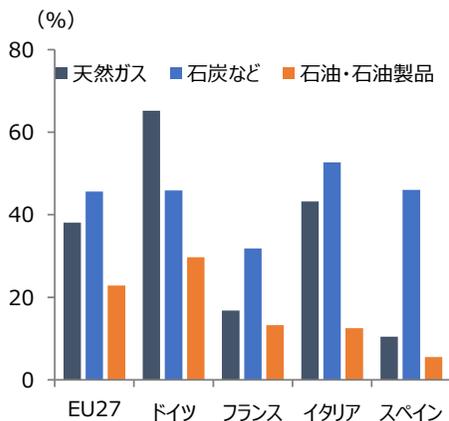
注：コアは、除くエネルギー、食料品・アルコール・タバコ。
出所：Eurostatより三菱総合研究所作成

2 天然ガス在庫水準 (欧州)



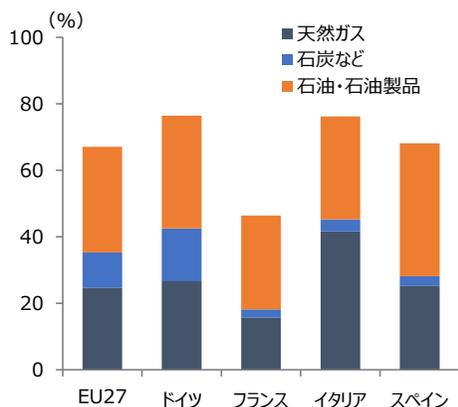
注：各年の週数平均。直近は22年10週目 (22年2月27日の週)。
出所：AGSIより三菱総合研究所作成

3 化石燃料のロシアからの輸入割合



注：2020年。各エネルギーの輸入全体に占めるロシアからの輸入割合。
出所：Eurostatより三菱総合研究所作成

4 エネルギー供給に占める化石燃料割合



注：2020年。総エネルギー供給に占める、各化石燃料の割合。
出所：Eurostatより三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 22年2月のユーロ圏の消費者物価指数 (HICP、速報値) は前年同月比 +5.8%と1月に続き97年の統計開始以来の過去最高を更新 (図表1)。
- エネルギー価格が物価上昇要因の過半を占める状況に変わりはないが、ECBが注目するコア物価は、同+2.7%と1月 (同+2.3%) から上昇幅が拡大。幅広い財で物価が上昇している。

基調判断と今後の流れ

- ユーロ圏の消費者物価は、エネルギー価格の高止まりにより上昇が続いている。
- 先行きの注目点は、緊迫化するウクライナ情勢のエネルギーへの影響だ。
- ウクライナ情勢緊迫化により、天然ガス価格は再び急騰している。米国などからのLNG供給により、天然ガスの在庫水準はやや改善も、依然として低水準にある (図表2)。エネルギー需要が減少する春から秋にかけて、ロシアからの供給懸念で在庫積み増しができなければ、22年末も再び在庫不足が生じるだろう。
- 欧州は天然ガスだけではなく、石炭や原油もロシアからの輸入割合が高い。特に、ドイツはいずれもEU27カ国の平均を上回る (図表3)。さらに、各国の主なエネルギー供給源は、原子力の利用割合が高いフランスを除けば、天然ガスや原油などの化石燃料が中心だ (図表4)。
- EUは経済制裁発表時に、エネルギー安全保障の観点から再生可能エネルギーへの移行を加速させる方針を示したが、短期的にはロシア依存の解消は難しい。ロシアからのエネルギー供給の不安定化やエネルギー価格の上昇が継続すれば、企業活動や消費が下振れし、回復ペースは鈍化するとみる。
- 欧州経済は物価の高止まりと経済下振れリスクに直面している。インフレ抑制を重視し金融政策正常化を急げば景気の下押しにつながり、インフレを放置すれば、後に大幅な引き締めが必要となる。ECBは物価と経済動向の両方を見ながら、正常化に向け難しいかじ取りが求められるだろう。